

朝 三 分

四月の末の或る朝、幼稚園においでになつた小父さん（幼児は倉橋主事を小父さんとよんで居ます）は黒のソフト帽と鼠色スプリングコートをぬいで大きな脇かけ椅子にふか〜とおかけになりますとついでに信夫さんと、和子さんと君子さんは、小父さんの後からついて来てしづかに椅子に腰かけて圓い卓をかこんで互ひに顔と顔とで話し合つてゐました。小父さんのところにおいでのお客様がいつもなさるやうな様子して。

やがて小父さんは新刊大型の外國保育雑誌をひろげて見ていらつしやると三人はそろ〜と小父さんのまはりによつて來ました、小父さんはよつて來た三人へ

Sun, Moon, Stars!

Watch me go!
You are just jewels in
と春の歌を誦んで下さいました。ハンス トーマの畫いた子どもが春を謳つてゐる繪も見せていたと、

あつ、ひらがある！

信夫さんは歌をきいてゐながら小父さんのおつむのしら、がを見つけてしまつたのです。そしてたう〜大きなデスクに腰かけてしまひました。かうしなけりや小父さんのおつむには手が届かないのですもの。一本ぬきました。君子さんも一本、和子さんも。小父さんのおつむの髪は黒くて太くて眞黒、従つてその中のひら、がもはつきりしてゐますから、可愛い〜手では抜き易いとみえてこのち

の方に夢中になりました。六つの手で中の方までかきまぜてしまひました。ほーら、こんなのよ、私のもこんなに長いわ、一々小父さんに見せてゐます。小父さんはあつたいたいたい……誰か、三本ばかり一緒にぬいてしまつたらしいのです。

さあ、又今度ね、又ね、と互ひにお約束して三人の兒は保育室に歸りました。

僕、小父さんのひらがぬいたんだよ。

小父さんエイゴの本読んでいらつしたわ。

こんな長いぬいたのよ、(一尺位を手で示す)きいてゐた負けぬ氣の欣一さん。

僕、僕だつて堀先生のぬいた事あるよ。

その後座談會にて堀先生のお隣に腰かける光榮を得ましたのでそつとお頭を見ました所がどうでせう、この先生ばかりはあべこべに年をおとりになるのではないかと思ふ程漆黒の髪艶々しく一本のしらがさへ見えません。さてはあんまり信夫

さん達の自慢が美しく思はず堀先生の白髪を假想してしまつたらしいのです。

それにしてもまあ一寸想像してみても下さいまし。三人の兒が小父さんのお頭びんのしらがを夢中でさがしてゐる様子と、兒等にかこまれて溶けさうな小父さんのお顔とを。(よしこ)

